

コロナ前とコロナ禍での活動の違いとこれから

1G 2021301053 鈴木大斗

目次

- 1、研究動機
- 2、研究方法
- 3、研究結果
- 4、まとめ

1、研究動機

コロナ禍になり、テレビや新聞など多くのメディアでよくエンターテイメント業界はコロナの影響を受けているということをよく聞きました。そして、自分の好きなアーティストのライブが中止になったり、数が減ったりと観に行くことができなくなっている。ということから、実際のところ影響は大きいのか気になった。

この研究では、実際のところ影響はあるのか研究していく。

2、研究方法

友人3人（ミュージシャン、お笑い芸人、俳優）に対して、Google フォームで作成したアンケートに答えてもらう。下記参照。

名前（芸名、仮名でも可） 記述式テキスト（短文回答）	コロナ禍における活動状況、延期や中止になったイベントなど* 記述式テキスト（長文回答）
グループ名、所属事務所、レコード会社など（答えられる範囲で）* 記述式テキスト（短文回答）	コロナ禍前と現在活動していく変化や気づき* 記述式テキスト（長文回答）
活動歴（サークル、養成所など含む）例:2018~、2018/4~*	withコロナと言われてる中で活動するにあたり取り組んでいること、今後取り組もうとしていること 記述式テキスト（長文回答）
コロナ禍前の活動状況、活動予定など（観客として見てきた立場からでも可）* 記述式テキスト（長文回答）	

現在、エンタメ業界が行っている対応と、活動について実際に現場へ行き調査をする。

3、研究結果

サトシ OFELIA (Ba.) (ミュージシャン)

活動歴は2017年6月から。

コロナ前は、毎月1から3本のライブと半年に1回のMV制作、レコーディングを行っていたのに対して、コロナ禍では予定していた自主企画のライブが中止になり、他ライブもほとんど無し。新曲制作などの活動準備を行っていた。

現在は、ライブが前より少しずつ行えるようになり、ライブ配信も行うようになった。ライブ活動をメインに行っていたが、SNSなどネットを活用した広報活動にも力を入れるようになった。

藤原慎平 ひすいらん (お笑い芸人)

活動歴は2019年9月から。

コロナ前は、お客様との距離が近く、顔が見えた。だがコロナ禍でライブが中止になり、先輩芸人や他事務所のライブも無い為、観に行けなかった。

現在は、ライブが再開したが、コロナ前よりお客様が確実に減り、マスクをしている為、表情が分かりにくい。YouTubeでの活動を積極的に行っている。

鈴木琢朗 青年座研究所 (俳優)

活動歴は2020年4月から。

コロナ前は、公演の数が多く毎週のように観に行くことができていた。コロナ禍では、マスク着用での稽古が基本で、急遽稽古が休みになったり、延期になったりした。公演は行えたが、人数制限がかかっていた。

現在は、消毒や換気を行って、良い稽古場を作ろうと周りと協力をしている。コロナ禍で、人のことを見るようになり、稽古での集中度が上がった。自宅でもできる発声練習や、活動の情報収集や模索を行っている。

実際に行ったライブ会場での対応

場内の人数制限や、入場時の検温、消毒、マスク着用や声出し禁止などの会場でも基本的に取られている措置となっていた。隣の人との座席間隔や行列の人との間隔など人と人の間隔をあける措置がとられていた。問診のような質問フォームの回答とその画面を見せるという措置をとっていた会場もあった。

4、まとめ

コロナが感染拡大し始めた2020年よりはイベントも行われるようになったが、人数や観客の発声など規制されていることが多い。業界的には、今までメインだったものが変わりつつあるのではないかと思う。そして、それに伴い困惑しているところもあるのではないか。だが、出演者側は人が集まらずに集客効果があるものを日々模索し、実行している。運営側は、消毒、検温などの対応で人員配置など気を使っている部分が多くなっている。YouTube や TikTok などネットが十分にライブの開催できない今、カギとなると考える。

実際 YouTube などネットの活用法はどういたものが多いのか。既存のもの以外で何か新しく生まれるものはないか、既存のもので他に使えるものはないか。今後研究対象になり得るものも見つかった。